

桜町再開発・熊本城ホール 450 億円は優先、福祉に冷たい市政

適切な生活保護業務を行っていくために

ケースワーカーの充足率は 100%に

保護世帯は増え続け、2016 年度で 12,228 世帯です。それに対し、ケースワーカーは 138 人配置され、充足率は 90%です。国の規準の適正数は、一人 80 世帯で、153 人が必要です。しかし、138 人しか配置されておらず、15 人の不足です。1,200 世帯分が足りないこととなります。

1人あたりの担当数は平均で 88.6 人、区ごとに、一番多い南区では一人のワーカーが 94 世帯担当しています。

熊本地震発生もあり、複雑な問題を抱えるケースも増え、より丁寧な

ケースワーカーは「正規職員」の配置を

配置されているケースワーカーのうち、20 人は非正規の嘱託職員です。国基準では、非正規のケースワーカーは想定されていません。

【区ごとの担当数】(人) (世帯)

	保護世帯数	CW 数	担当数
中央区	4,271	49	87
東区	2,873	35	82
西区	1,834	20	92
南区	1,277	13	98
北区	1,973	21	94
合計	12,228	138	89

ケースワーク業務が求められています。適切な業務を行うためにも、速やかに 100%の充足率にすることが求められています。

経験の積み重ねや専門的な知識が必要とされるケースワーカーは、すべて正規職員を配置すべきです。

福祉の心をなくした「敬老祝い品」事業の縮小

2016 年度は、敬老祝い品事業が削減されました。88 歳と 100 歳以上を対象から外し、決算額で事業費は 2154 万円から 1024 万円へと半分に減りました。

これまでも、大型開発等のムダ遣いの一方で、敬老祝い品は次々と縮小されてきましたが、今回の削減もまた、長年社会に貢献されてきた高齢者へのささやかな感謝を切り捨てるものです。福祉に冷たい大西市政の実態を顕著に示しています。

【敬老祝い品の支給内容】

	2015 年度まで	2016 年度
80 歳	1,000 円	1,000 円
88 歳	2,700 円	なし
100 歳	27,000 円	27,000 円
100 歳以上	2700 円	なし

【支給人数(合計)】

2015 年度	2016 年度
10,435 人	6,532 人
2154 万円	1024 万円

【控室から】 文化の秋

上野 みえこ



病院のロビーで文化祭の展示が行われていました。私の住む帯山校区の文化祭も、地域の「コミュニティセンター」を会場に、11月初めに開催されます。過ごしやすくなったこの季節、さまざまな文化行事が取り組まれます。

我が家でも、部屋の壁には、孫の絵や工作が貼られ、付られ、さながら家庭文化祭。家族で楽しんでいきます。

「バレエ見てみたい」といこう歳の孫の言葉に、地元のバレエ研究所が毎年恒例で上演を続けている「くるみ割り人形」のチケット、孫の分も購入しました。生演奏のバレエの舞台、今から楽しみです。

多くの人が身近に文化を享受できるように熊本市に、心から願います。

熊本市が 450 億円もつき込む桜町再開発・熊本城ホールは、市民が借りて文化行事ができるような料金ではありません。解体された産業文化会館のように市民が気軽に利用できるような施設こそ、税金を使って整備すべきではないでしょうか。



日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまどか やまべひろ

NO. 1070
2017 年 10 月 29 日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
ホーム：共産党熊本市議団

熊本市中央区手取本町 1-1 議会棟

都市計画審議会が開かれました

10月17日、熊本市都市計画審議会が開かれました。

「都市計画審議会」とは、熊本市のまちづくりの骨格をどのようにしていくのか、道路や公園の整備、開発許可の是非、土地の用途変更などを審議します。

学識経験者、市議会議員、市民

などによって構成されており、共産党市議団からは、那須議員が所属しています。

今回は、浄行寺交差点の都市計画道路の変更や東部浄化センターの廃止、中央区出水地域の宅地開発、都市公園の見直しなどが議論されました。

都市公園の計画見直し

長期にわたり未整備区域が残る20の都市公園（右表の通り）の整備計画が見直されます。「実現性（残事業費など）」と「必要性」の評価を行い、継続か変更か廃止となります。公園は、良好な住環境に欠かせず、また避難所など防災の拠点になる場所です。安易な廃止とならないよう、住民の意見を十分に聞き、今後の方針を決めるべきです。

秋津浄化センターが廃止

住民の要望に沿った跡地利用を

近年、公共下水道の普及により処理量が減少している秋津浄化センターが廃止されます。

施設の廃止そのものは問題ないのですが、跡地については、近隣住民の要望をよく聞き、利活用すべきです。

見直しの対象となっている都市公園

種別	公園名
街区公園	秋田公園
	坪井1丁目公園
	中緑公園
近隣公園	池亀公園
	保田窪公園
	川尻公園
	白藤公園
	高野辺田公園
	蓮台寺公園
地区公園	八景水谷公園
総合公園	熊本城公園
運動公園	南運動公園
広域公園	水前寺江津湖公園
歴史公園	北岡自然公園
風致公園	花岡山公園
緑地	立田山緑地
	神園山小山緑地
	戸島山緑地
墓園	小峰墓地
	城山墓園

人口減少社会に関する調査特別委員会

9月7日、「人口減少に関する調査特別委員会」が開催されました。この委員会は、少子化にともなう人口減少社会への対策および、地方創生に関する調査を行うもので、党市議団からは、やまべ議員が本年度より2年間所属いたします。

委員会では、熊本市の「人口ビジョン」（平成62年度で人口70万人を維持する）にもとづき策定された「熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略」（「総合戦略」）の事業および取組み状況などが説明されました。

熊本市も人口減少時代に突入

一定住促進へ、地元企業の雇用創出を

熊本市では2016年、年間の死亡者が出生者を上回り、統計上初めて「自然減」に転じました。

そうしたなか今回は「総合戦略」の施策のうち、「雇用の場の拡大・雇用の質の向上」、「農水産業の振興」、「人材育成の支援と移住定住の促進」、「交流人口

の拡大」の計191事業について議論されました。

定住の促進については、安心して働くことができる雇用を生み出すこと、わけても地域の雇用を守るためにがんばっている地元業者への支援が必要です。

少子化克服と次世代育成 ー安心して産み育てられるまちへ

次回からは、『少子化の克服と次世代育成』をテーマに、「結婚・妊娠・出産支援の推進」、「子ども・子育て支援の充実」、「仕事と子育ての両立支援と若者の経済的安定」の94事業について、安心して産み育てられる環

境づくりや子育て世代の経済不安解消のための雇用支援、などについて

調査がおこなわれます。

